

学校法人龍谷大学は、現在、1 短期大学と 8 学部（文学部、経済学部、経営学部、法学部、理工学部、社会学部、国際文化学部、政策学部）からなる 4 年制大学と 9 つの大学院研究科、1 専門職大学院を設置している。学舎は、深草学舎（京都市伏見区）、大宮学舎（京都市下京区）、瀬田学舎（滋賀県大津市）からなるが、短期大学部は深草学舎にあり、龍谷大学と併設されている。本報告書では、龍谷大学短期大学部を示す場合は「本学」と称し、4 年制大学を示す場合は、「龍谷大学」と称する。加えて 4 年制大学と短期大学部を併せて表記する際には、「全学」と称する。

序章

1. 自己点検・評価の実施経過

近年、短期大学を取り巻く環境は、18 歳人口の減少により志願者数が減少し、約 7 割が入学定員割れを起こしているという大変厳しい状況にある。このような中、本学は大学に併設する短期大学という利点を活かし、変化し続ける多様なニーズに応えるべく自己点検・評価活動に毎年取り組み、教育・研究・社会活動を積極的に展開してきた。

自己点検・評価に基づく教育・研究・社会活動は、短期大学として情報公開するとともに、社会に対して説明責任を果たす義務がある。学校教育法に基づく第三者による認証評価を受け、本学の教育・研究状況を公表するとともに、社会に対する責任を果たすため、2010 年度に大学基準協会の短期大学認証評価を受審し、「適合」の評価を受けた。

龍谷大学は全学的に、中・長期計画に基づき諸事業に取り組んでおり、2010 年度からの 10 年間で「第 5 次長期計画」期間と位置付けている。本学はこれに則り、学生や保護者、社会等のステークホルダーの要請に応えるため諸事業に真摯に取り組んでいる。

本学はこれまで 3 度、文部科学省の現代的教育ニーズ取組支援プログラム（通称：現代 GP）、特色ある大学教育支援プログラム（通称：特色 GP）に採択された。また、これまで本学が蓄積してきた教学資産の有効活用を図るため、2011 年 4 月に社会福祉科を「社会福祉学科」に名称変更するとともに、新たに「こども教育学科」を設置した。

個々の教育職員が教育・研究活動を真摯に振り返り、社会活動への積極的な参画を果たしてきたことが、現在の本学の維持・発展に繋がっている。各自の意識改革を通して、今後も引き続き自己点検・評価のマネジメントサイクルを機能させることにより、より一層社会的使命を果たしていきたい。

2. 自己点検・評価の体制

本学における自己点検・認証評価の体制は、次に示すとおりである。併設の龍谷大学において設置・機能している組織や制度を併用しているため、本学では 4 年制学部の基準に沿った運用がなされている。まず、全学の自己点検・評価を所管する組織である全学大学

評価会議があり、その下に具体的な業務を審議する大学評価委員会が設置されている。本学においては、短期大学部自己点検・評価委員会（以下、「短大自己点検・評価委員会」）が、その任にあたることになっている。

このたびの自己点検・認証評価に際して、「短大自己点検・評価委員会」は、本学各教職員が学内委員として所管する業務について点検するとともに、全体を俯瞰して作業を進め、適宜、全学の大学評価委員会と調整を行いながら、以下のとおり報告書を作成した。

3. 前回の認証評価結果を受けての改善活動

2010年度の短期大学認証評価結果において、「研究活動と研究環境」について助言を受けた。具体的には、①「研究業績が少ない教員が見受けられ、また、科学研究費補助金などの申請数も少ないので、研究活動を活発化させるよう改善が望まれる」、②「研究倫理に関する規程や委員会が整備されていないので、改善が望まれる」の2点であった。この助言を受けた改善活動は、①科学研究費補助金については、申請数の増減はあるが、採択総額は増加傾向にあり、一定の改善とみることができる。また、②研究倫理に関する各種規程の整備、委員会の設置による環境整備の結果、研究遂行上の倫理的配慮がなされた研究が実行されうる体制が整った。詳細については、以下報告書記載のとおりである。